第四期長期計画調整計画策定委員会　分野別団体ヒアリング　会議要録

■　日　時　①平成 19 年９月 14 日（金曜日）　午後７時から午後８時 30 分まで

②平成 19 年９月 17 日（月曜日）　午後１時 30 分から午後３時まで

③平成 19 年９月 17 日（月曜日）　午後３時 15 分から午後４時 45 分まで

④平成 19 年９月 17 日（月曜日）　午後５時５分から午後６時 35 分まで

■　場　所　①市役所８階 811 会議室

②③④市役所８階 802 会議室

■　分　野　①子ども・教育分野

②都市基盤分野及び行・財政分野

③健康・福祉分野

④緑・環境・市民生活分野

■　出席者　①田村委員長、山本副委員長、酒井副委員長、加瀬委員、栗田委員、栗原委員、小原委員、前川委員、向井委員、村井委員、会田委員

参加者 61 名、企画政策室長、企画調整課長ほか

※９月 14 日の傍聴者５名

②田村委員長、山本副委員長、酒井副委員長、加瀬委員、栗田委員、栗原委員、前川委員、向井委員、村井委員、会田委員

参加者 16 名、企画政策室長、企画調整課長ほか

③田村委員長、山本副委員長、酒井副委員長、加瀬委員、栗田委員、栗原委員、小原委員、前川委員、向井委員、村井委員、会田委員

参加者 32 名、企画政策室長、企画調整課長ほか

④田村委員長、山本副委員長、酒井副委員長、加瀬委員、栗田委員、栗原委員、小原委員、前川委員、向井委員、村井委員、会田委員

参加者 33 名、企画政策室長、企画調整課長ほか

※９月 17 日の傍聴者９名

１．子ども・教育分野

【団体】

16 ページに記載の「主体性ある『中間組織』」とはどのようなものか。

【団体】

健康づくり支援センターを効果的・効率的に運営するためには、現在行われている活動が継続的でないことに問題があるのではないか。

【団体】

武蔵野市における子育ち支援の根幹をなす理念と方針の確立を掲げていただきたい。

【団体】

調整計画の策定後に、子育ち支援の根幹をなす理念の構築のために、未就学児、小学生、中学生、それ以上の子どもの専門家と、ステージごとの保護者が参加した児童育成指針のようなものを作る必要がある。

０歳から 18 歳までの子どもを一本軸ととらえて、様々な行政機関や子育て支援の担い手が関わっていくことが必要である。行・財政分野との整合性も図りながら、子育て支援の基本的な理念を明確につくる必要がある。

【団体】

子ども協会は０歳から 18 歳までが対象であるとうたわれているが、現状としては０１２３のところでとどまっている。今後はどういう位置づけになって、どれだけ活かされていくのか。

【団体】

子育て支援とは、０歳から５歳くらいまでを指すのではなく、18 歳、あるいは 22 歳くらいまでを指すのではないか。

【団体】

子育て支援は０歳から 18 歳であり、それぞれの主体が役割を果たしながら、市全体としてどのような子育て支援を行っていくのかということが重要である。

市全体としてどのような子育て支援（０～18 歳）を行うのかが非常に大切である。また、そのコーディネートを、誰が、どのように行うのか議論していただき、それぞれの子育て支援の担い手が果たすべき役割を明確にしていただきたい。

【委員】

同感である。人生は点ではなく線として流れているものである。調整計画の中で図式化して、ライフステージに応じてどのような施策を実施していくのか、市民に分かりやすく示していきたい。

【団体】

市が、子育て支援団体と言うとき、団体に何を、どの程度望んでいるのか。子育て支援についての理念を掲げる必要があるのではないか。

児童虐待についての書き込みが不足している。子育てＳＯＳ支援センターのような組織的に固まっているところには、子どもは相談し難い。もう少し具体的な施策についての記載が必要ではないか。

【団体】

ファミリーフレンドリーの理念はもう少し分かりやすい表現にして欲しい。全ての子どもの育ちと学びを保障する環境の整備は重要なことであり、最優先に掲げていただきたいぐらいである。

【団体】

学校、家庭や地域、行政が一体となって教育に取り組んでいく旨の記載があるが、地域にそこまでの力はないのではないか。家庭や学校を補完するのが限度ではないか。

【団体】

保育園とか０１２３とか、子育て支援を担う主体がバラバラでまとまっていない。そこにいけば何でも出来るような、子育て支援センターが出来ないか。

【委員】

これまでの議論の中では、子育て支援、居場所は、自分の住居の近くで気安い場所に、という意見が大半であった。今日の意見では、世代を通して、一貫して悩みを話せるような場所、施設を、という意見であるように思えるが、どうか。

【団体】

子どもの居場所が近所にあって、地域の方々が子どもの顔を知っていると、心強い、安心感をもてる。子どもの手を引いて歩いていける距離、それが一番いいのではないか。

【団体】

子育ては親育ての部分がかなりある。子育て支援といっても、誰にどのように働きかける必要があるのか、親と一緒に話し合うような場をもてると良い。

【団体】

いかなる施策、施設であっても、児童福祉の観点を忘れず、質の高い人材と必要な経費がかかるものであるということをぜひ明文化していただきたい。

【団体】

私立幼稚園は、市の幼児教育を肩代わりしてきた。また、これは財政的にも相当な貢献であるが､幼稚園経営者の努力､あるいは保護者の犠牲の上に成り立っているとも言える。公立と私立の負担差は、狭い市域の中での格差であり、不公平であると考える。格差解消に当たっては、単なる平均化ではなく、高いレベルに他を合わせていただきたい。

【団体】

公立幼稚園の継続を望む声もあるが、ＮＰＯとか特別法人とか、運営主体を替えて継続することを検討できるのではないか。

【団体】

武蔵境圏で検討する複合型施設とはどのようなものを考えているのか。

【委員】

第四期基本構想において、境幼稚園は新たな子育て支援施設として発展的解消を図るとされているが、具体的な形までは記載が無く、結論が出ていない。討議要綱でも触れて、市民の意見も頂きながら策定委員会でも議論を行い、具体的な方向性について早急に検討を進めていきたい。

【団体】

子育て支援施設であれば、武蔵境圏にとどまることなく、それは市全体の子育て支援施設の拡充を図るべきである。

【団体】

泉幼稚園の跡地利用については、元の園長先生としては、小さな子どもとお年寄りが集えるような場所、複合施設という御希望があったので、地域で議論し、中高生も交流できるような施設として考えていた。保育園のような利用者固定の施設ではなく、むしろ自由来所型の施設を望む。

【委員】

今年度、緊急の保育対策が必要になったので、保育園を提案したが、地元の方との話し合いの中で、保育園という形ではない形でもう少し時間をかけて、この調整計画の策定の経過などを踏まえて検討していきたいという考えである。

【団体】

児童館の職員は横のつながりを持っていて、子ども達を市内だけでない広い世界に繋げていく能力と役目を持つものである。あそべえや土曜学校の成果は評価するが、児童館を

設置しないことによって、国や世界など外部の世界と子ども達を結び付ける幅広い情報をどのように保障するのか。

【委員】

コミュニティセンターやテンミリオンハウスなどに、専門的な知識を持った方がいて、子ども達に情報提供できれば良いのではないかと考える。今後検討していきたい。

【団体】

児童館は本来、小学生だけでなく、0歳から18歳を対象とする「青少年センター」のような施策である。時間帯を分けるなどして幅広い世代が使える施設だったり、幅広い地域の子ども達が利用できるような施設があると良い。

【団体】

学校の教育力の拡充について、数値目標を明確にしていただきたい。

【団体】

学童クラブについては、平成10年の条例化をめぐる議論や市民会議提言の趣旨等を尊重し、学童クラブの充実を前提に、計画を策定していただきたい。

児童の放課後の生活の場である学童と、全児童の遊び場である地域子ども館とは、別事業と位置づけたうえで、連携を考えていただきたい。

学童在籍児童の土曜日問題については、学童クラブの枠内で解決を図っていただきたい。

学童クラブの校内移転について、明記していただきたい。

【団体】

小学校から学童クラブまで、子どもの足で20～30分かかっている。早期に、校内もしくは隣接地への移転を実現していただきたい。

【団体】

子どもにとっては、学童クラブに入っているか、あそべえに来ているかは、どちらもあまり関係ない。1つの施策に統合して、放課後安全に過ごせるものがある方が簡潔である。市の担当課も一つである方が良い。地域の目も、一つの方が行き届きやすい。

【団体】

青少年の居場所は、当然、必要である。武蔵野市の現状はあまりにも寂しく、早急な反省と再検討が必要である。

【団体】

中高生の居場所については、全世代を対象としたコミセンや、複合施設であるプレイス

でどこまで対処できるのか。専用施設というあり方も必要ではないか。

【団体】

中学生の居場所についての検討が必要である。けやきコミセンなどは中学生を上手く受け入れている。場所よりも、大人の理解、支援なのではないか。

【団体】

生涯学習とは生まれたときから死ぬまで、まず生まれたときには家庭教育、それから学校教育、それから社会へ出てから、そして最後に退職した後も、それらの過程全てを通して学ぶことと考える。そうであれば、家庭教育についての書き込みが、もう少し必要ではないか。

【委員長】

解釈としては、まさにそのとおりであるが、施策化していくときにいろいろと問題がある。

【団体】

生涯学習成果を「還元」する、というのは短絡的かつ近視眼的ではないか。特にシニア世代については、個人個人が健康を維持し、適切な判断ができる能力を保つ、という点もあるので、もう少し広い表現が適切ではないか。

ここ 10 年くらい、現役世代は昔よりもはるかに厳しい社会になってきて、大変である。一方、高齢者は比較的、時間の余裕がある。高齢者をもっと教育の場で活用してはどうか。高齢者と子どもの交流は、楽しみでもあり、文化伝承の側面もあり、双方にとって良いことなのではないか。

【委員】

生涯学習の成果を地域に還元できる仕組み、というのがまさにそれである。

【団体】

土曜学校の「世界を知る会」や三中の国際理解講座等を、市や策定委員はどのように評価しているのか。

「既存の生涯学習施設」とはどのようなものか。市民会館については、社会教育の核としての位置づけを明確にしていただきたい。

【団体】

図書館の場合、図書と、職員、人と、利用する人間があって、初めていい図書館というか、魅力ある図書館になっていく。もう少し書き込みが必要ではないか。

【委員長】

最近の動向を見ながら、公共図書館のあり方を考えていきたいと考えている。

【団体】

理念を明確にすることにより、必要な施策が明らかになり、その結果、ハードが必要となる場合もあるだろう。武蔵野市における文化的な施策とかビジョンは何なのか。地域の教育者、芸術家はもっと活用できる。また、過去の文化人に対する顕彰が行われていない。文化によって様々なものを活性化するという流れを作ることが必要ではないか。

【委員長】

公共がどこまで出来るか分からないが重要な指摘である。文化については、教育とは異なる角度から見直す必要があるだろうと感じている。

【団体】

青少協の拠点は小学校、地域の核はコミセンとなっており、組織ごとに、守備範囲（地区割り）が異なるため、地域が一体となって子育て支援にかかわっていくことが困難である。色々な事業を実施してはいるが、トータルで考えられていない状況である。

地域のマンパワーが非常に落ちていて、子どもたちに向ける目、労力がなかなか得られない状況であることを踏まえないと、地域との協働は難しい。

【団体】

青少協が弱体化したのは、市役所が青少協という場を、マンパワー確保のために使ってしまったからである。そのために、青少協は形骸化してしまって、何ら青少年健全育成の施策について長期的なビジョンを持てずにいるのではないか。市民の中に青少年健全育成、子育て支援という認識があるのか。どれだけの市民が「米百俵」の考えを持っているか。

【委員】

青少協についてはいろいろ問題もあるようなので、やはりもう一回考え直さなければいけないと考える。

【団体】

やはり地域のメインは公立小学校だと考える。そこに集まる保護者は、20～30 年後の地域の核であるので、地域の中で小学校のあり方や活動されている PTA について、もう一度検証が必要であろう。

【団体】

郷土史の資料館をぜひ作って欲しい。戦争や文化財など、小学生から大人まで、武蔵野市のことを誇りを持って語れるよう、開設準備だけでなく、貴重な資料や記憶が風化しない仕掛け、文化資料がきちんと残っていくような工夫をして欲しい。

【団体】

地域でまとまることは重要なことであるので、障がい者、高齢者についてもあらゆる施設が利用できるよう、バリアフリーに配慮し、対処して欲しい。コミセンについて 20 年以上も、障がい者が２階に上がれない状態が放置されているのは、行政の怠慢である。

２．都市基盤分野及び行・財政分野

【団体】

団地自治会にある自主防災組織の設備として AED を設置したい。家具転倒防止金具のような援助はできないか。現在市の施設のどこに AED を設置しているのか。

【団体】

AED は武蔵境地区では市民会館とスイングホールにしか設置していない。コンビニエンス・ストアに設置できないか。

現在､郵政省跡地のマンション居住者に地域の自主防災組織への参加を呼びかけている。討議要綱にある自主防災組織のサポートを市は是非積極的に進めて欲しい。

【事務局】

AED については本庁舎、体育館等に配置している。今後は公共施設に順次整備されていくことになるので活用して欲しい。自主防災組織に設置できるか回答する状況にない。コンビニエンス・ストアへの設置について担当課から予算要望が出ている。これから査定を行っていく。

【団体】

まちづくり条例は制定後の活用が重要｡これからは市民がまちの将来ビジョンを共有し、それに基づいてまちづくりを実行して行く計画協議型のまちづくりへ移行して行くことが重要。

見直しを契機にまちづくりのあり方に対する市民の意識の転換を促すきっかけになるだろう。従って市民参加で行ってほしい。調整計画策定にあたってはこういった意味合いを書き加えて欲しい。

コミュニティ協議会と連携した地域のまちづくりプラン策定の検討を調整計画に位置付

けたことは評価する。より具体的に発展させて欲しい。

【団体】

亜細亜大学の中を南北に貫いている小中学生の通学路について、通学時間帯は車両通行禁止にできないか。

【委員】

道路を利用する方の利便性との兼ね合いもあり、時間で規制するということは最近では難しい。道１本のことではなく「まちづくりのビジョン」の中で地域の共通理解を得られるような方法を考えていただきたい。地域のコンセンサスがとれるかが問題だと思う。

【団体】

外環の２のみが問題のように書かれているが、大深度での外環本線が決定したわけではなく市民はまだ勉強していく必要がある。外環本線についても検討が必要。

【委員長】

今の段階では問題提起という形で書いてあるので意見を参考にしていきたい。

【団体】

駅前の放置自転車は災害時に支障をきたすので駐輪場整備を進めて欲しい。

高層マンション建設等開発の際には市がイニシアティブをとって、防災・防犯について考えて欲しい。

調布保谷線は調査したところ交通量が減っている。市民のために本当に必要なのか。道路は人が歩くためのもので車のためのものではない。市民にとってどのような道路が必要か、市が積極的に考えていって欲しい。

【委員長】

高層マンション建設についてはまちづくり条例に基づき、今後は市民と行政が積極的に対応していきたい。

【団体】

一人暮らしの高齢者は防犯上の不安を抱えている。不安解消のためのパトロールの方法について、指導して欲しい。

【委員長】

何か参考になる例や考えはあるか。

【団体】

定期的・組織的に防犯パトロールを行うのが効果的だと思う。

【委員】

防犯に関してはほとんど記述がない。市民の要望と市の事業がフィットしていないように思う。パトロールをしているという状況は外部に対して有効であると思う。積極的に考えていきたい。

【委員】

防犯と防災はセットで考えるべき。高齢者への防犯・防災対策が進まない一番の原因は個人情報保護の問題。地域とつながりたいと希望している方から登録をはじめ、地域のなかにネットワークを作ってはどうか。パトロールが有効な手段かどうかはもっと研究するべき。一人ひとりの防災ケアプランを立てている地域の事例もある。地域のほうからも積極的に提案をして欲しい。「隣近所の底力」をどう計画に入れるか議論が必要。

【団体】

地域の昼食会への参加を呼びかけるため、高齢者宅を回り顔を合わせることが安心につながっており、定期的にパトロールするよりは楽。高齢者宅を訪ねるきっかけが重要。町内に手作りの防犯ポスターを表示することで防犯意識が高まり、外部にもアピールすることになる。こういった活動に市の支援・援助を。個人情報に固執しているのは行政側である。もっと積極的に地域の人との関わりをもっていくべき。

【団体】

地域の防災訓練の際、社会的弱者をどうするかが課題となっている。防犯組織を警察と市がそれぞれ作っているが二本立てとなり、かえって地域の中でまとまらず、弊害となっている。

【団体】

武蔵野市の考える保育の質とは何か。市では保育の質をどう保ち、向上させて行くのかしっかりした方針を確立したうえでコストの問題を考えて欲しい。

【委員】

公立保育園の３か年間の運営については、公立保育園評価委員会から一定程度効果があったと前向きな評価を受けたと考えている。これから質を高めて行くようしっかりした仕組みづくりが必要。コストに関しては市内の民間保育園との差、多摩地区の公立保育園との差を考えどうコストダウンを図っていくのか、保育園の経営の観点から一定の方針を考えていきたい。

【団体】

中道通りの整備について車道を狭く歩道を広くという要望を出していたが、都の補助金の関係で変更になってしまった。「ひとにやさしいみちづくり」という考えに逆行している。市民の要望を取り入れながら補助金をもらえるよう努力をして欲しい。

【団体】

いろいろな課題を実現して行くためには地域の力を充実することが重要。そのためには合意づくり（コミュニケーション）の力が必要。

【委員長】

まちづくりをしていくうえで主役は市民であるというところだが、マネジメントするのは行政なので表現しにくい部分である。どう具体的に計画にしていくのか苦慮している。

【委員】

市民が主役であるということは討議要綱では自治基本条例や情報共有のあり方という表現にとどめている。これから計画を策定していくなかで盛り込んでいきたい。

【委員】

地域での運動・活動を集約し機能を持たせ、市と協働する体制をつくる時期にきているということを位置づけていきたい。地域自治をはっきりと打ち出す時期に来ている。

【委員長】

ヒアリングをしていく中で大変多くの団体が活動しているということがわかった。新しい行政と市民のあり方をどういう形で具体的にしていくかが課題だと思っている。

【団体】

西部図書館は高齢者や親子連れが多く利用しコミュニティの場となっているので存続して欲しい。武蔵野市には図書館が３つしかないのでプレイスができるから廃止するということではなく、もっと図書館を増やす方向で考えて欲しい。

【団体】

都道の歩道部分に関して武蔵野市に権限を委譲してもらえないか。行政区域の違う道路についてお互いに連携を取れないか。道路の問題については現在コミュニティセンターが受け皿となり地域で協議する体制をつくっているが、住民だけでは解決できない問題もある。市の方でも他の自治体と協議して解決していけるよう考えて欲しい。

【団体】

武蔵野市には様々な活動団体があるが、地域ですみ分けができていない。転入者にもわかりやすく、入りやすい地域の区分けがこれからのまちづくりには必要。

３．健康・福祉分野

【団体】

「・都市の窓を開こう　・新しい家族を育てよう　・持続可能な社会をつくろう」と３つの目標を掲げているが、それぞれの意味を教えてほしい。

【委員長】

第四期長期計画において掲げた目標であり、詳細はわからない。定義だけ申し上げると、１番目は都市が外側の地域や都市と交流し、これから生きていこうということ。２番目は、今、家族が崩壊しているので、いろいろなところに家族にふさわしい、親しみをもてる世界をつくっていこうということ。３番目は、今あるもの、環境を大切にしながら、sustainability（持続可能）という言葉がはやっているが、そういう社会をつくっていこうということ。現在の市民の考えをどれだけ反映しているかわからないが、この目標は間違いではないと思っている。

【団体】

避難所の整備・運営体制の確立に障がい者の問題も入れて検討願いたい。障がい者が一般の人と同様に避難所で過ごすことは困難である。

【団体】

P17 にある①、②、③の視点は全て大事なものだ。地域包括ケアシステムについては、非常にさらりと検討すると記述されている。本当に検討してほしい。命にかかわる課題は全て優先してほしい。

福祉は人である。善意によるボランティアだけでは大変であり、活動に見合うだけの対価の支払いが必要だ。また、福祉チップ、ポイント制などを取り入れた市民の底力を上げる方法について、真剣に考える必要がある。

市職員は高齢者の住宅問題という課題に関して、いろいろなアイデアを出してほしい。

【団体】

介護保険制度の記述に続いて、障害福祉サービスの利用者負担の軽減事業の実施と障害者自立支援法を補足する事業の展開について、是非記載してほしい。都では、平成 19 年４月より障害者施策推進区市町村包括補助事業が新たに実施された。区市町村の主体的な施

策展開を支援するものであり、是非この施策の有効な展開をお願いしたい。

優先施策に「障がい者福祉の推進」を入れ、国や都への働きかけにとどまらず、より先駆けた施策の実施をお願いしたい。

「障がい者の生活支援の検討と充実」という項目を追加し、是非、自治体の土地家屋の無償貸し出し、市営住宅、都営住宅の有効活用など、具体的な施策の検討を。

「障がい者に関わる事業者への支援」という項目を追加し、福祉にかかわる人がきちんとした介護報酬が得られるよう、国や都への働きかけと同時に、市独自の支援の検討を。

障がい者が安定した生活を送るためには、仕事場、家庭のほかに楽しむ場所も必要だ。武蔵野市には青年学級と位置付けるものがなく、余暇活動は個人的な動きが中心となっている。行政が何らかのかたちで、積極的に関わっていただきたい。

【団体】

障がい者にとって就労は大事だが、余暇活動も重要である。障がいを持った人たちの文化センターのような、絵画、音楽、織物など余暇活動を行う様々なグループが集えるような場があれば助かる。介護に携わる人を育てる機会にもなる。

【委員長】

リフレッシュする場といった話は本当に大切だ。

【団体】

障害福祉サービスの利用者負担の軽減について、検討してほしい。

日常生活用具の給付については、どうしても生活に必要なものを給付してもらうわけであり、10%の負担がないようにしていただきたい。

障害者福祉センターについては今後、どうなっていくのかわからないようだが、訓練・リハビリだけでなく、余暇活動の場としても利用できたら、と思う。

【団体】

P14 の「(1)本当に困っている人々への‘社会への信頼感、支えられ感’の回復と創出への支援」は非常に重要なことだ。本当に困っている人々への支援は誰も異存がないはず。武蔵野市のような自治体はこういうことに、力を注ぎ、お金を使って良いと思う。

障害者自立支援法施行後、作業所で働いて手に入る工賃よりも、作業所を利用する負担金の方が多い事例があるとのことで、びっくりした。このような実態はおかしい。市民会議提言書 P19 の(2)の主旨を参照し、働く人のための対策をお願いしたい。

【団体】

介護保険料の余剰金は、どのようなかたちでプールされ、運用されているか。

【事務局】

介護保険料については、雇用保険料などとは違い、３年ごとに事業計画を作成し、そのなかで運用することになっている。長期で運用しているわけではない。

【団体】

団体を運営しているが、経営的に難しい状況となっている。障がい者が地域で暮らしやすくなるよう、各事業者の経営面での支援を考えていただければ。

【委員長】

何か具体的な提案はあるか。

【団体】

事業収入からヘルパーへの支払いを除くと残りは少ないという状況だ。事業を進めていくうえで、お金の面が一番大きい問題だ。検討をしていただければ。

【委員】

障害者自立支援法施行によって、サービス利用者の負担は目に見えて増えている。武蔵野市の現状について勉強し、計画には頂いた意見を反映できるようにしていきたい。

【委員】

障がい者の問題は非常に深刻だ。武蔵野市は障害者自立支援法施行に対し、対応している部分もあるが、本格的な対応をしていないというのが感想だ。障がい者が地域で生活をするためにはどうすべきか、意見を聴いて、論議を深めたい。

【委員】

これまでの意見の中で、住宅問題に関するものが印象に残った。自分の力での生活が難しい人が、地域で暮らし続けていくための基盤となるのは、住宅と医療である。住宅の問題は討議要綱で弱いところだ。また、趣味・余暇活動を広げていく手立て等についは、欠けていた。武蔵野らしい、豊かな余暇活動が展開できたら、すばらしい。

【団体】

平成 18 年４月の介護保険法の改正により、サービスがセーブされることが多くなった。また、コムスン問題以来、都からケアマネジャーの事業所に監査が入り、利用者の方では、監査の方を向きケアプランを作成している。介護者が疲弊し、虐待につながるということも考えられる。介護保険の充実が必要であり、武蔵野市独自の施策ができれば良い。

【委員】

非常に重要な問題であり、大変なことが起こっている。武蔵野市内でも、相当数虐待の事例がある。市と話をして、具体的にどうしたらいいのかを考えることが重要であると考えている。

【団体】

「福祉サービスの質の確保」は担い手である「人」の確保にかかっている。今後、市が福祉の人材の養成・育成にかかわらないと、市民ニーズに対応できず、自由で安全で安心した生活そのものも確保できなくなる。

エレベータメンテナンスの手抜き事件、コムスン不正請求事件等、市場の暴走の中で、公的責任、特に自治体の責任があいまいになってきている。このような中、公共の利益を担う組織である社会福祉法人の担う役割を市として明確にし、そこに公益性の高い事業を任せ、税で行っていくことを市民に説明し、透明性を確保する必要がある。それにより、Ｐ14 に記載のある「本当に困っている人々への“社会への信頼感、支えられ感”の回復と創出への支援」につながる。

【委員】

介護している人のサポートは是非必要だと考えている。

【団体】

花時計では、世代間交流を目指した活動を行っている。テンミリオンハウスについて検討するにあたり、見学をしていただき、状況を把握していただきたい。

【団体】

地域で、元気に働くことは意義のあることだ。是非、具体的な検討をお願いしたい。

【委員】

三鷹のシルバー人材センターでは、様々な職種がある。武蔵野市で、植木の剪定などではなく、新規で目指していることはあるか。元銀行員等人材はいると思うが。

【団体】

地域の人が何ができるのか、検討しているところだ。ホワイトカラーの仕事を希望する人がほとんどであり、仕事の注文とのミスマッチが多い。

【委員長】

そのあたりは計画で書かせてもらうかもしれない。

【団体】

障がい者は様々であり、ケアの仕方が違う。ボランティアは最低限の知識を身に付ける

ことが必要。

障がい者福祉の現場を見学すると、実態がわかる。意見を聴いただけでは、納得いかない部分もでてくる。

芸術療法としてピアノなどを使用している。ライブハウスを借りているが、とても高い。子どもたちの演奏する場が、小さくてもあれば有り難い。

【団体】

デイグループとして認めていただき、活動をしているが、対象者など基準がしばりになっている。困っている人には来てもらいたいため、制度の変革ができないか。

【団体】

障がい児の親が共同で運営している会のため、障害者自立支援法の関係で法人化するのは困難。障がい児の学童クラブという方向で存続できないか、と思っている。市、都から補助金をいただいているが、指導員に雇用保険をかけられない状態となっている。人員の確保という面から、援助いただければと思っている。

【団体】

視覚障がい者等向けにテープ作成、対面朗読を行っている。中途失明の方が増えているが、個人情報保護法により、そういった方へ情報を届けるのが難しくなっている。いろいろなサービスの周知方法について検討願いたい。

【委員長】

何か具体的な提案はあるか。

【団体】

福祉の窓口で、中途失明の方がいらしたら、我々が作成したテープを渡すなど、きめ細かな配慮をしていただけると有り難い。

【団体】

ヘルパーへの支援をお願いしたい。ヘルパーの給与が低いので、介護保険に市がプラスして事業所へ給付したらどうか。事業所も事業を継続することができる。

【委員長】

貴団体として、福祉領域での事業所の振興、活性化というところに力を入れよう、という面はあるか。

【団体】

福祉は人の問題が大きい。人への支援を行っていきたいと思っており、ヘルパーへの教

育等を行っていこうと考えている。

【委員長】

非常に心強い。大変重要なことであり、是非よろしくお願いしたい。

【団体】

討議要綱の中に障がい児の記述が少ない。保育園や小学校などで障がい児との関係をとりもつ、「接着剤」になるような人がいれば、と思っている。また、余暇活動は福祉だと思う。保護者に声を聴くなどして、検討をお願いしたい。

【団体】

高齢者の居場所は、もう少し日常的で普段着で利用でき、お世話する人、される人の区別がなく、皆が主人公となれることが必要。このような考えのもと、当団体では「居場所プロジェクト」を進めており、モデルケースとして認めるという英断をお願いしたい。あらゆる行政関係の場所等とともに、地域の力をあげるため必要であり、是非お願いしたい。

【委員】

テンミリオンハウスとは別の制度のものを考えているのか。

【団体】

テンミリオンハウスより、もっと普段着で利用でき、住民がかかわって、主人公になって運営することで、地域の力になっていくと思っている。期待を持ってモデルケースにしていただきたい。

【団体】

障がい児の兄弟が登校拒否、いじめにあっているケースが多いので、その対策をお願いしたい。

【委員】

具体的な話が多く、大変勉強になった。具体的な事実、提案については紙に書いて提出願いたい。論点整理に役に立つ。

４．緑・環境・市民生活分野

【委員長】

武蔵野市は住宅都市であるが、吉祥寺なり大きな商業地を抱えている。ビジネスの面から攻めの展開も必要だ。現在それが「市民生活」というくくりで閉じ込められているのは落ち度である。緑と環境の問題、更にまちの活性化ということに関して積極的に議論いた

だきたい。

【団体】

「武蔵野市の工業は、これまでの経緯や武蔵野市というまちの性格を見ると工場誘致などは不可能であり、高い成長を期待することはあまり現実的ではない。」という記述があるが現実的ではない。実際、工業の売り上げは横河、ＴＥＡＣを除いても 300 億ほどある。こういった中で、当団体でも「モノづくりは国づくり」という観点から振興していかなければいけないと考えている。論点の中にこれを入れ込んでいるのか。ないようなら、産官学の連携を強めるなど入れてもらいたい。

吉祥寺商圏以外の路線商業の厳しい状況について記述されているが、商店街はまちの顔であると考えている。後段において、吉祥寺グランドデザイン、武蔵境の整備について記述しているが、方向性と論点の中に入っているのか。

【委員長】

武蔵境の鉄道高架、三鷹北口の変化だけではなく、ソフトの面から、自前の産業をどのように活性化させていくかを考えていきたい。いろいろ提案をいただきたい。また、こちらも発想をもっている。

【団体】

吉祥寺地区はグランドデザインが完成したが、具体的な計画に入る前に一度商業者との懇談を実施してもらいたい。

三鷹の北口には 14 の商店会があり零細の商業者が多い。商店街というのは、防犯・防災の役割を担ってきたが、高齢化などにより空き店舗が増えてきた。また、三鷹駅北口のツインタワーの建設、境の浄水場には「いなげや」ができる。行政側は路線商業に対してどのような考えをもっているのか、行政と話合う機会をつくっていただきたい。

【団体】

討議要綱の中でコミュニティに対しての期待の大きさがうかがえる。コミュニティセンターでは商店街の活性、まちづくりも考えて、商店街の方を招いて話合いたいという会合をもつが、なかなか商店街の方が関わってくれない、というのが実情だ。期待が大きいが、コミュニティについてもっと知ってもらいたい。

【団体】

P7～8「コミュニティセンターに機能を集約していくことを基本としていた。しかし、近年～特定の年齢階層を対象とする施設に対する要望や高齢者や青少年の「居場所」に対す

る要望が強くなっている。」という記述は、コミュニティセンター以外にも施設をつくるとも捉えられるが、市税の減少が予想される中ではコミュニティが努力をしていかなければならない。行政がして欲しいことをする協働ではなく、地域の様々な団体の中心となる必要がある。行政だけが縦割りではなく、市民も縦割りになっているところもあるので、集約する必要がある。

【委員長】

確かに行政が縦割りである前に、市民も縦割りになっていると思う。そのあたりをどのようにしていくのかも論点の一つだ。

【団体】

コミュニティセンターに集まる人々は、各々自分が興味のあることで入ってくるため、皆同じ様に考える、というのは難しい。また、防犯・防災など課題があるが、地域住民ではないと出ない発想があり、行政との協働でズレが生じている。行政のやり方を押しつけないで、市民がやり易い方法を汲み取ってもらいたい。防災にしても、組織をつくるというよりも、拠点に人が集まれば、その時自ずとリーダーが決まると確信がある。市民との協働において、行政は柔らかくなってもらいたい。

【団体】

コミュニティセンターは、公民館的にするべき。それには、震災に耐えうる鉄筋コンクリートづくりなどにするべき。

【団体】

コミセンを中心としたまちづくりは、コミュニティ構想から30年経過しているが、今後はＮＰＯ活動促進３原則をあわせてやっていく方向づけが必要だ。そのため、コミセンに参加してきた人は、自己点検・評価を真剣にやってきた。コミセンを中心としたまちづくり、という方向性でこのままいけば、新しいメンバーも増えていくと思う。

【団体】

現在の自主３原則においても、コミュニティセンターは、まだまだ力を発揮できる。例えばコミュニティセンターにおいて、屋上緑化など積極的に進めるべき。緑被率をあげていくためには全く新しい発想が必要だ。そういう意味で言えば、財政的措置も必要だ。

【委員長】

コミュニティセンターを地域の大切な資源として大いに活用すべきだ。

【団体】

まだ境東地区にコミュニティセンターがない。コミュニティセンターづくりの活動が始まったばかりだ。これまで、コミュニティセンターがないため、地域づくりが遅れている。地域づくりについて、全体的なボトムアップの議論をお願いしたい。

【団体】

武蔵野市の中では小さな公園が沢山あるが、公園を目的別に分けて活用していく時代になっていると思う。例えば、ドックランなど。

【委員】

使われていない公園をうまく使うこと、国の方向も統廃合にいくと思うが、その前に使われている公園がどのように使われているか検証する必要がある。

【団体】

市街地には、ごみが散かり放題であるが、自動販売機やコンビニエンス・ストアによるところが大きい。そういう部分をどういうかたちで規制していくか考える必要がある。

【団体】

防災委員が高齢化してきた。連絡協議会ができると心強いと思う。現在、ムーレンジャーの研修に参加しているが、行政も全市的な研修を開催してもらいたい。

【団体】

緑・環境・市民生活分野はテーマが広すぎる。現実的な話をするためテーマを絞って、コミュニティ関係者、商業者などだけで集まった方が良い。

【団体】

市民の中にも縦割りがあり、商業地域、コミセン、公園それぞれの分野で独自性があり、つながっている感覚はない。その中、緑化に関しては、商業活性化という点で人を呼ぶ質の高い空間（人が心地よく楽しめる場所）が必要である。

自然環境センターの設置は、緑化に関する協働のためには大変評価できる。

校庭の芝生化は、屋上ガーデンや緑のカーテンなど様々な取り組みも考えられる中、なぜ校庭の芝生化が特化されているのか違和感を感じた。緑のカーテンなど様々な施策も検討にいれてもらいたい。

緑の量から質への検証も評価できるが、具体的な記述が欲しい。第４期長期計画においてグリーンマスター制度の記述があったが、その評価を聞きたい。

【委員長】

まちそのものが文化的装いにかけている部分があるので、商店街の活性化と合わせて考

えていく時期だと思う。

討議要綱においては、今回問題として挙げられているもののみあげているのでまた議論させていただく。

【団体】

長期計画の策定以後、大きく変わった社会情勢の１つとして地球温暖化の悪化だと思う。

ごみの有料化などは重要だ。

地方分権化の中、自治体そのものが自発的に動かなければなにもできない。

今回もっとも重要なのは、市の職員の自発性を育てることだ。職員の研修など積極的に行う必要がある。第四期長期計画の中に盛り込まれてこなかった重要なことは沢山ある。

【委員長】

論点において、環境について考えていく記述はしたが、更に具体的につめていきたい。

【団体】

一番最初の項目として地球温暖化の記述をしてもらいたかった。温暖化に対して、経済的インセンティブだけでなく、地域でできることはいろいろ考えられる。もう少し拡大した記述を希望する。

自然環境センターは良い考えだが、緑だけではなく、ごみ問題など含めた協働のため環境センターの検討をお願いしたい。

【団体】

行政に対する意見として、成果に対する検証など経営者としての感覚が欠如している。

コミュニティ条例の中、電子コミュニティについては違和感が当初からあった。是非条例の見直しをしてもらいたい。

【委員長】

現実の問題として今あるコミュニティとコミュニティセンターについて考えていくべき話だと思う。

【団体】

最近小学校ではビオトープなど行なっているが、空いているスペースの活用として、屋上緑化は効果的だ。

【団体】

武蔵野市には36ｈａの農地がある。現在緑被率、緑率などを用いて緑を増やそうという動きがある。校庭の芝生化の話もある。緑を増やし、農地の保全に努めてほしい。

【委員長】

農業生産、食育の問題について農業サイドからの発想は何かあるか。

【団体】

現在、新生児に野菜引きかえ券を配布する「こうのとりベジタブル事業」に協力している。この機会に市内産の安全な野菜を利用いただきたい。

【委員長】

更に生産力を向上させることは考えているか。

【団体】

三鷹の多摩青果の統合より、直売所での販売が多くなり、需要も大変大きくなっている。生産履歴を出すなど安全性に努めたり、直売所マップなどを配布している。

【団体】

現在ＪＡ新鮮館で野菜を販売しているが、商店街での野菜販売店には大きな打撃を与えている。また、新鮮館では花も販売しているが、こちらも同様だ。以前、ＪＡ側と話をしたが、これ以上販売量は増えないということで話をまとめた。これから、商店街とＪＡがお互いに競争できるように市の仲立ちにより、上手な話し合いをしたい。

三鷹駅北口地区まちづくり推進センターは、是非設置をしてもらいたい。例えば、高層な建物をつくり、1、2 階は駐輪所として十分な駐輪スペースを確保し、その他は賃貸などに活用し、上層階をセンターとするなど検討をお願いしたい。

【委員長】

三鷹駅は吉祥寺・武蔵境に比べて、ハードの面でも遅れてきている。吉祥寺にはまちづくり事務所、武蔵境には開発事務所があることからも、三鷹駅にも同様な組織をつくると同時に、新しい機能をもっていけないか提案している。

【団体】

1 つの市の中にＪＲの駅が 3 つあるのは特徴的だと思う。それぞれの整備についてテーマ・個性など方向づけはされているか。

【委員長】

三鷹、武蔵境は規模が小さいことからも、バラバラに考え、それが開発のスピードにも反映されてきた。個性を活かしていくという考えでやってきたが、まだその段階まできていないと思う。これから考えていかなければならない時期に来ている。

【団体】

商業だけに限った話ではないが、地域活性化のためには、三鷹・小金井など隣の行政とも話合いを行いながら、広域連携の必要がある。

【団体】

路線商店街は大変苦戦していることからも、長期計画の一項目として路線商店街の支援・整備を入れていただきたい。

【委員長】

産業などはもっとはっきりと記述したい。路線商店街については、少なくとも一つの項目としてあげるべきだと思う。

製造業、4次産業、3.5次産業の展開について貴団体としてはどのように考えているか。あわせて、貴団体の戦略をお聞かせ願いたい。

【団体】

推進していくべきと考える。工業を移転させたことは非常に残念。商業と同様工業も非常に大事だと考えている。今後の取り組みとして、産官学による取り組みが理想と考えている。

商・工業の事業所がいかに繁栄していくかが課題であり、商業はまちのにぎわい、工業は新製品の開発を促進していく。

【団体】

邑上市長になってから各コミセンでタウンミーティングを行なっている。２年間で一巡したら今後どうなるのか。今後は、市役所の部・課長がコミセンを訪れる方式にしたらどうか。

【委員長】

討議要綱においても、地域担当制のように積極的に市民とコミュニケーションをとるように、と提案はしている。今後も行政のあり方として書こうと思う。

【団体】

境南コミセンの自主防災活動において、なかなか人が集まらないという現状がある。他のコミセンにおいては、どのように行なっているのか。

【団体】

どこでも少ないという現状があるが、中学校に声をかけたり、保育園の父母に声をかけたりしているが、やはり苦労している。

【団体】

５つの施策分野の論点において抜けている部分は、重点的に国際的な視点から見ることと、文化の点から見ることが抜けている。福祉分野においては、ごく当たり前のことが記述されているが、見せ方としてキーワードをたて、見やすくする必要がある。また、地域が活性化するためには、プリンシプルが必要だ。１つはＣＩ（コーポレート・アイデンティティー）。武蔵野の魅力は何であるか、様々な角度から検討する必要がある。そしてそれを普及する仕組みの研究が必要だ。もう１つは、市民のニーズをどのように吸収していくか、新しい制度の構築が大切。武蔵野の魅力をどうするかマスタープランが必要。また身近なこととして、放置自転車を近隣住民、警察と協力してゼロにする運動を展開すべき。補足として、デルファイ法という意見を客観的に収れんする方法がある。

【団体】

武蔵野市は住みたいまちの上位に位置しているが、何故住みたい人が多いのか、分析をしてもらいたい。私見としては、たまたま法政、三鷹駅北口の問題があったが、高層建築に対する問題をうまく処理をしてきたためだと思う。住みよいまちとしてあり続けるために、規制等についてしっかりと長期計画において位置づけて欲しい。

【委員長】

我々は容認するつもりでないが､適切に対処する方法が見つからないというのが現実だ。

【団体】

マネジメントと言った時、市の職員の感覚は人・物・金をどう使うかという考えしかないと思うが、技術・情報・時間・空間・システム・風土といった資源をどう使うかが今のマネジメントだ。例えば、公的空間を使い再生産活動の検討、空いている土地を活用して市民農園への転化する発想などが考えられる。

【委員】

人と人とが繋がり、どのようなまちをつくっていくのかが大きな課題だ。商店街にしても、地域とのつながりにおいて、どのような取り組みを行なっていくか明確には書いていないが、商店街と地域の結びつきを模索している地域も出てきている。緑にしても、環境にしてもそういう繋がりが大切だ。